

磐城時報

第四十期
日刊
石城郡平野町四丁目
電話 四一四
印刷所 磐城時報社
印刷部 磐城時報社
電話 四一四
電話 四一四
電話 四一四
電話 四一四

鮫川復活問題で 古川縣議起つ

十三日當局に肉迫

石城郡選出縣議員古川傳一氏は十三日の縣會に於て石城地方民の希望して止まない鮫川疏水復活問題について質問を試み當局にその復活の一日も速ならん事を迫つた、質問の要は左の如くである。

「鮫川疏水復活問題に關し先に地方民と共に陳情した際縣當局は慎重調査の上近き將來において何とか考慮しやうとの回答であつたが一部には奇怪な噂さへ傳へられてゐる。更にこの場合縣の聲明を求めたい、鮫川疏水は廿四ヶ町村の管轄で七百餘町歩の用水で三十年前縣の勸奨によつて疏水組合を組織し工事したが一滴の水も通水する事なく地方民は徒らに舊債償還のため今尚廢塘の如き慘狀を眺めながら苦しんでゐる、その後大正八年にこれを復活せしめる事を條件として創立した鮫川疏水復活問題に關し先

川水電會社は地方民を騙つて株主とし莫大な金を募集しこれを雲散霧消しながら全く企業の意志なく現在ではその所在さへ判明しない有様であるこのため地方の失つた金額は實に八十萬圓の多きに達してゐる、然るに五年度において縣は阿武隈及本宮の兩農業水利改良工事が施行されながら僅三十萬圓の豫算を以てこれが復活をする事が出来ぬ鮫川疏水のみ豫算に計上せられなかつた事は遺憾に堪へない傳ふる處によるこの方面には政黨的關係が潜在してゐるといふが果して事實か、この点については特に知事の答辯を乞ひたい、更に疏水と離るる事の出来ない鮫川水電會社が企業の意思のない處から約束不履行の故を以て遂に與へた同意を疏水側で取消したら縣は疏水側の既得権を自發的に失効して取消すか」

炭礦方面の斡旋に 平紹介所手古摺る

炭礦が勝手に雇入れられるため 伏見町長から依頼状

平町に於ける職業紹介所は炭坑額について少なからず注目してを中心として設置されたが、實際における同紹介所八苦の状態にある極貧者が平町に於ても四十名は下るまいと豫

介所の紹介を快よしとせず氣まに求職者を雇ひ入れて来た結果から炭坑側としてはその間に或る種の弊害を醸し又紹介所側としても充分本能を發揮する譯に行かぬ關係に置かれてあり炭坑側がこうした傳統的雇傭關係を廢止して充分紹介所を利用すべきにあらざればこの問題は始末で紹介所は無論の事中央事務所に於てもこの不可思議なる原因には非常に頭を悩まして居るが、近く炭坑側の關係者より過般の全國職業紹介所長會議の點について協議する筈でこの種々善後策を試みられた程であ

平町極貧者に 正月の餅代を與ふ

本年は四十余名

遠慮なくお話し詰まつて来る歳末想されてゐる。に御歳暮や御年玉の事を考へられる者は、餘糧のある方で餅をつくごころか、さうして年を越したらよいかと苦しんでゐる極貧者に對して平人事相談所では毎年米券を與へて救濟をなして來たが今年も相當多量の見込を要する人員も相當多い見込で各方面における極貧者を調査中である、平町は新曆正月をするのである二十五日頃までに救濟の方法として金圓を與へることにする由であるが、平町として未現在に於て常盤各炭礦を通じて平町に於て常盤各炭礦を通じて示すに至り斯くて永らく不況の底に沈んでゐた炭礦界も最近漸く活氣の傾向を辿つて居るもの

常盤炭礦 活氣づく

常盤各炭礦では需要期に當面し何れも馬力を掛けてゐるので着活況を呈して來た、殊に磐城炭礦鐵坑では既に排水作業を整へ盛んに採炭を開始すると共に赤井村古河坑は去る十月復活以來陣容を立直し好間古河復活も

藝妓の緊縮

旅館、料理店への祝儀を廢す

何々婦女會員、何々婦人會員と地代四割値下げの決議を平町に立派な肩書を有して居る御に於ける各家主、地主に突きつ婦人方が世はあげて緊縮の秋だけ目下交渉中であるが平町に三町各區長、各町議に對し右運から出來得る限り緊縮して大い十餘戸の貸家を有してゐる石城郡小川村草野晴次郎氏は十二月動の歩を進めてゐる。

保証人に窮して 日雇人をたのむ

百二十圓を詐取 前科八犯の詐欺犯

石城郡飯野村大字下荒川詐欺前川町生れ當時住所不定無職林藤科八犯志賀光成（五九）は去る九悦（二六）といふ男を唯一の容疑料理屋等に對する祝儀は絶対に廢止し若しこれに違反した藝妓があつたら五圓以上三十圓以内の違約金を徴収することにしようといふ事を固く約束し實行することとなつたため一般からは少なからず興味を以て見られ

農産品評授與

平、神谷、平窪一町二ヶ村聯合農産物品評會授與式は十一月十日神谷小學校に舉行した、入賞者左の如し。

平の家賃 續々値下げ

石城郡勿來町方面に最近頻々と盜取して戻る途中四倉署員に捕ら鮮魚八貫匁価格三圓二十錢を

軒並泥棒

石城郡四倉町字仲町切昆布製造業吉田武（三〇）は十三日午前二時頃同町字蛸川本田辰吉方から切昆布十俵價格八圓五十錢を盜取しその足で仲町菅原金藏方から鮮魚八貫匁價格三圓二十錢を

勿來の強盜

石城郡勿來町方面に最近頻々と盜取して戻る途中四倉署員に捕ら鮮魚八貫匁價格三圓二十錢を

▲森本氏母堂逝く 平 運輸株式會社重役森本盛一氏母 堂ノ子刀首は病氣中の處十三 日午後一時長逝した、葬儀は十 八日午後一時平町田町自宅出棺 松堂院に於て行ふ由である。

原町通信 村議補選

相馬郡太田村々議堀川七郎右 衛門氏は過般死亡の爲め補欠 選挙は来る一月中に執行さる 事に決定したが、同村は政 民相伯中の處にて野心家多く 之れが選挙間近となれば激烈 なる競争あらんと今より注目 されて居る。

▲高平村議補選

相馬 郡高平村々議補欠選挙は既報 の如く十五日午前九時より村 役場に於て舉行と決定したが 目下の處候補者として同村下 高平前村會議員玉木由松氏一 人舞臺として無競争と見做し 居たるが十三日午後俄然上高 平村金貨業古内勝治氏が名乗 を揚げたるを以て選挙當日ま での競争激烈とならんと。

▲俵米品評會

相馬郡太 田村農會主催にて俵米品評會 は十四、十五日に亘り同村小 學校に於て執行する筈なるが 出候数は二百餘にして審査結 果優等者には夫々授賞する由 である。

横暴な組合

一女工生投 私はある工場の一女工ですが こんな事は云ひたくはないけ れどもあまりにひどい事と思 ひまして云ふ事にしました。 世の中が緊縮と云ふので私等 はこれまでだまされて来たので す、然し今度組合が又一割引 を發表したので私等は今度だ け厭する事は出来ない、私見

を表現して世人の識見を聞きた うございます。 私等がこれまでにどんな事に あつて来たかと云ひますと、 今春來の不景氣と云ふので多 くは知りませんが私等の働く 工場、友人の働く工場の事情 を聞くに組合が今度發表する までに工場主が一割以上の賃 下げをして居ることでありま す、そして今度又組合の決議 により一割下げをせんとし て居るのであります、斯くし て世人のわからぬ間に一割以 上もさげて今度又一割引ささ れんか二重になりまして、資本 主がかかる事をして世人の目 をくらまそうとするのを私等 はにくむのあまり拙文を草し た譯です。

印刷物は 加納活版所

國家の法官連が去日の運動の 悪影響、今度も工場の事務員 重役さん達の給料が下らぬ様 な話がある事を聞きまして、 かつる事のみを働く組合は早 くよしてもらひたい、これま で景氣がよくならなつて何割工賃 値上げの決議を見せてもらつた 事がないやうに思ひます、元 來のこの勞資共同の製産事業 と云ふものは如何なる事も勞 資共同で協議をして決議すべ きものでないかと思ひます、 まして不景氣時代の工賃等の 値下は勞資関係の深いもので ありますから特にだらうと思 ひます。

私等が協議の上なら如何なる 事にも反対しません、反対も 出来ない何の話もなく、然も かかる手段によつて二重の値 下をせんとする悪資本主を私 等は早く撲滅せなければなら ないと思ひます、今一度世人 のお話を聞いて工場主の方は 善處されんことを願ひしま す。

十三日替り

高津愛子、藤間林太郎主演 濱田格、鈴木信子助演 大阪新日紙連載マキノ、獨特 學生ローマンズ

銀座 王 砂田駒子と東郷久義の初對面 大帝キネマ特作 久し振りで市川百々之助主演

仲封切 尾崎靜子、沖田英二助演 少女俱樂部所載 原作行友李風 破軍 星 實川善雁、桂武男、根岸東一 郎、坂東三右衛門、岡島艶子 マキノ登六、大共演 普通席二十錢 學生席一十錢

有聲座

腸胃 專門 村松 皮膚病 專門 院醫科 (七〇一話電)

電話、水道附 商店向貸家 (家賃十七圓) 平町新川町三十番地 中野勇吉 電話一三三番

暖爐界之征服者 ネンシヨウストーブ 經濟的連續完全燃燒 消費節約 火防衛生 優美堅牢 簡便を欲せらる、御方は是非御試し下さい 御請求次第力タロク進呈 釜屋商店 電話九番・一三九番

若柳流舞踊之名手 若柳吉良師 近日中當地劇場へ來平 後援 磐城新聞社 磐城時報社

外科 專門 X光線科 上田外科醫院 電話一二九番

平町紺屋町 吉田眼科醫院 電話八六番

平町字仲町 二葉印刷所 電話七三四番

耳鼻咽喉科 專問 新築 場所 合津醫院 電話五九五番

吸入用酸素、酸素吸入器 正確体温器、寒暖計 特約一平町 關内藥局 電話四〇番

三日のむたらピツタリこまる 新治淋 トリプチン 定價 (三日分壹圓 七日分二圓 十一日分參圓 廿日分五圓 四十五日分拾圓) 平町一丁目 (電話六四二番) 特約一手販賣店 大平屋藥舖

母スズ儀病氣の處養生不相叶十三 日午後一時永眠仕候につき御通知 に代へ此段謹告仕り候 追て來る十二月十八日午後一時自宅出棺儀式を 以て松堂院に於て施行可仕候 男 森本盛一 親戚 加藤丈夫 總代 堀江正茂